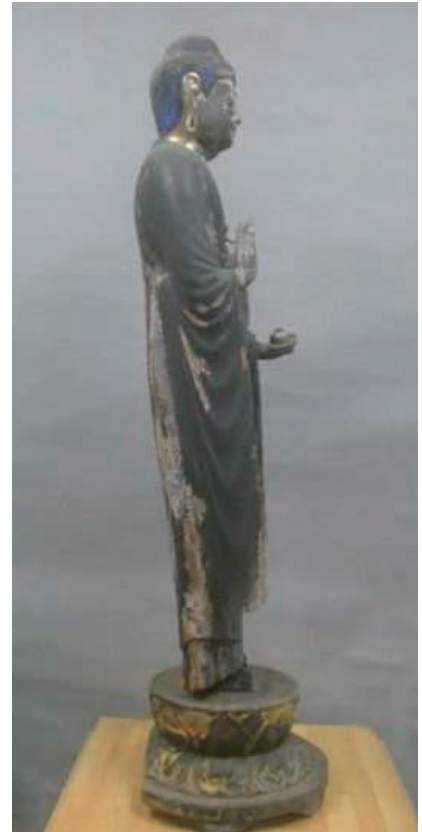


平塚市指定重要文化財「正福寺木造保薬師如来立像」保存修復事業

正福寺 代表役員 木村 企秀

<修復前>



正福寺木造薬師如来立像

像高 97cm

神奈川県

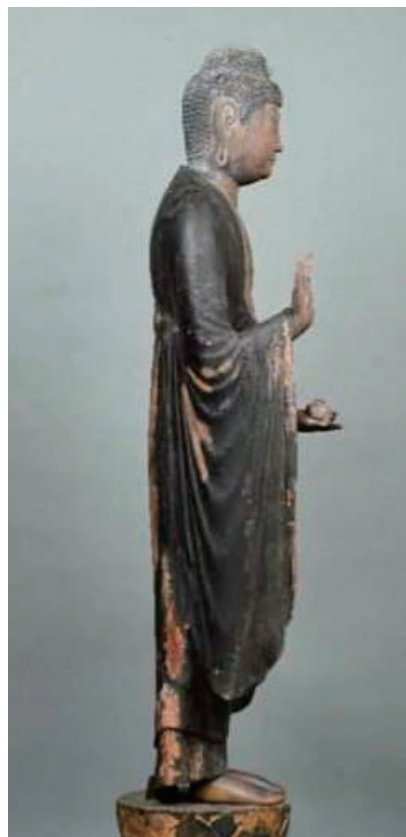
解説

平塚市指定重要文化財薬師如来立像は、12世紀の造像とみられ、左手に薬壺を持つ通有の薬師如来像である。割矧ぎ造りで彫眼、彫技は丁寧でありその作風は、平安後期の定朝様式で、神奈川県の古代彫刻史においても重要な存在といえる。

寛文十年（1670）に鎌倉仏師加賀により修理され、台座が補造されたことが墨書より知られる。それ以降は修理の手は入っていないようで、像表面の剥離、矧ぎ目の緩み、袖部足部欠損、傷みが進行しており自立ができず、倒壊する恐れもあり修復が必要と判断。

数百年ぶりの修復は、一年かけて完了。令和六年十月平塚市博物館にて、一般公開したことで、市内最古の仏像を市民に周知することが出来ました。

<修復後>



修復業者

光圓美術研究所

修復内容

燻蒸を行い、像表面の埃や汚れを丁寧に刷毛で清掃、古色は残す。清掃後、矧目の緩み、欠損箇所、表面の剥落や傷みを確認。

各矧目は取り離し調整後、麦漆で接合。左袖、両手両足の欠損箇所を新補し、朽損箇所は木屎漆等で補強。必要に応じてパラロイド溶液を含浸させ素地の強化を図る。

自毫、肉髻は後補の木造から水晶で制作。解体した像を組み上げ、各修理箇所を調整後、古色仕上げを施す。

修 理 報 告 書

平塚市指定重要文化財

木造薬師如来立像

2024 年 2 月 28 日

光圓美術研究所

1. 事業に係わる概要

- | | |
|----------|-----------------------|
| 1) 所有者 | 正福寺 |
| 2) 名称 | 平塚市指定重要文化財木造薬師如来立像 一軀 |
| 3) 修理施工者 | 光圓美術研究所 瀧本光國 |
| 4) 修理場所 | 鎌倉市材木座3-6-19 |
| 5) 修理費用 | 別紙に記す |

2. 保存状態

本尊

- ・像全体に彩色の浮き上がりや剥落などの損傷が激しかった。特に面部、胸部などの肉身部に見られる後補の金箔や下地の損傷により像容が損なわれていた。
- ・虫蝕孔も両手に加えて像全体の数か所に認められた。
- ・左袖材の一部分が脱落、欠損していたが、幸い部材が厨子内で発見された。
- ・頭部は螺髪の一部に後補とみられる不十分な補修が認められた。
- ・右手第一指先が欠失。左手第一、第二指が欠失していた。
- ・両足が欠損しており、後補の足柄はあるものの台座に自立出来ない状態であった。
- ・白毫、肉髻は後補の木造であるため水晶にて新補した。

台座

- ・表面の塗りは剥落し素地が露出していた。
- ・隅足の一ヶ所が欠失していた。

3. 修理仕様及び工程

- ・4月5日 運搬
- ・4月5日から清掃（約2週間）
- ・4月下旬～5月下旬 パラロイドB72の10%～40%溶液を含浸させ（材質の劣化に応じて濃度を変える）素地の強化を図る（約1か月）
- ・6月上旬～9月下旬 各矧目を必要に応じて取り離し、麦漆で接合した。（約3～4か月）
- ・10月上旬～11月上旬 各矧ぎ目の旧修理で施された木屎漆や錆漆、彩色は取り除く（約1か月）
- ・11月中旬～11月下旬 燻蒸 ※鎌倉国宝館の館内燻蒸に合わせて行った。（約10日間）
- ・12月上旬～2月上旬 欠損部分は新補し、朽損箇所は木屎漆等で補強した。（約2か月）
- ・2月中旬～2月中 白毫、肉髻を水晶で制作した（水晶の木型の作成は約3日間）
- ・2月下旬 各修理箇所は顔料等で古色仕上げとした。（約1～2か月）
- ・2月28日 運搬 正福寺へ搬入

【修復前】



【修復後】



修復前





修復中













完了

